

2015年11月16日



公益社団法人 日本看護協会
Japanese Nursing Association

2016年度「看護の日・看護週間」中央行事
「看護」の現場で出会った、心温まるエピソードのコンクールを開催

第6回「忘れられない看護エピソード」募集

～ 最優秀賞・内館牧子賞受賞の4作品の中から、1作品をショートムービー化 ～

募集期間：2015年11月16日（月）～2016年2月19日（金）

公益社団法人 日本看護協会（所在地：東京都渋谷区／会長：坂本すが）は、5月12日の「看護の日」と、同日を含む日曜日から土曜日までの1週間を「看護週間」として、「看護の心をみんなの心に」をテーマに毎年さまざまな事業を実施しています。その一環として本年も、看護職や一般の方々を対象に、「看護」の現場で出会った心温まるエピソードを募る、第6回「忘れられない看護エピソード」の募集を11月16日（月）～2016年2月19日（金）まで行います。

募集部門は、看護を行う側の看護師などを対象とする「看護職部門」、看護を受ける側の患者さん・ご家族を対象とする「一般部門」を設けています。各部門の最優秀者には賞状および賞金20万円を進呈いたします。また本年は、最優秀賞・内館牧子賞を受賞した2部門合計4作品の中から、1作品をショートムービー化（2～3分想定）し、表彰式や本会ホームページなどに発表する予定です。

審査は特別審査員の内館牧子さん（脚本家）、ゲスト審査員、厚生労働省、日本看護協会関係者などが公正に行い、5月8日（日）に日本看護協会ビルで行う表彰式や新聞広告、本会のホームページなどで、受賞作品を発表する予定です。また、受賞作品発表後は、ご応募いただいた方々全員に、第6回受賞作品小冊子をお送りいたします。



内館牧子さん(脚本家)

2015年度は過去最多となる2部門合計3,536作品が集まり、素晴らしい作品を通じて多くの方々に看護の大切さを感じていただく機会となりました。2016年度も、第6回「忘れられない看護エピソード」の募集を通して、より多くの方々が看護の身近さや大切さを感じ、超高齢社会を迎えている現代において、看護の心をはぐくんでいく一助となればと考えています。

<看護の日について>

「看護の日」の5月12日は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみのもので、中島みち氏（ノンフィクション作家）の発案・呼びかけにより日野原重明氏（医師）、橋田壽賀子氏（脚本家）、柳田邦男氏（作家）など、市民・有識者による「看護の日の制定を願う会」の運動をきっかけとして、1990年12月に制定されました。以来、5月12日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」とし、毎年、厚生労働省と日本看護協会が中心となり、全国各地で看護に関係したイベントや活動を行っています。



看護の心をみんなの心に

5月12日は
看護の日

<報道関係のお問い合わせ先>

第6回「忘れられない看護エピソード」事務局（電通PR内）

担当：大森、北村

電話：03-5565-2718 FAX：03-3546-2017 mail：sachiko.omori@dentsu-pr.co.jp

■第6回「忘れられない看護エピソード」募集要項

- 【部門・応募資格】：①看護職部門：現在、国内で看護職に就いている方、または過去に看護職に就いていた方
②一般部門：日本国内在住の方
- 【募集内容】：「看護」を通して得られた忘れられない思い出やエピソードについて800字以内でまとめてください。(原稿用紙/ワープロ、縦書き/横書き、いずれも可)
なお、作品には必ずタイトル(題名)を付けてください。
※応募は1人1作品、本人作の未発表作品かつ日本語で書かれたものに限ります。判読不明な文字、不鮮明な文字は審査の対象外となる場合があります。必ず楷書で書いてください。なお、ご応募いただいた作品は返却しませんので、ご了承ください。
- 【募集期間】：2015年11月16日(月)～2016年2月19日(金)※当日消印有効
- 【応募方法】：作品と次の必要事項を記入した用紙(書式自由)を添付して、下記住所宛に郵送するか、日本看護協会ホームページからご応募ください。
<必要事項>
①応募部門(看護職/一般) ②郵便番号・住所③氏名 ④年齢 ⑤性別 ⑥電話番号
⑦メールアドレス(ある方のみ) ⑧職業 ⑨勤務先と免許取得年(看護職のみ)
※ハガキ、FAXでの応募は不可。
- 【応募先】：
郵送⇒ 〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町2-21-10 セブンビル6F
第6回「忘れられない看護エピソード」事務局
日本看護協会ホームページ⇒ <http://www.nurse.or.jp/episode/>
※専用フォームからご応募できます。
- 【賞金・賞品】：■最優秀賞…賞金20万円(各部門1作品)
■内館牧子賞…賞金10万円(各部門1作品)
※上記受賞作品の中から1作品をショートムービー化予定。
■優秀賞…3万円(各部門3作品)
■入選…ナースキティオリジナルぬいぐるみ(各部門5作品)
■応募者…第6回受賞作品小冊子をお送りいたします。 ※いずれも予定
- 【審査員】：特別審査員 内館牧子さん(脚本家)、ゲスト審査員、厚生労働省・日本看護協会関係者などで審査
- 【主催】：厚生労働省、日本看護協会
- 【発表・表彰】：2016年5月8日(日)に開催する表彰式で発表。最優秀賞および内館牧子賞の受賞者には表彰式に出席していただけます。また、日本看護協会のホームページ(<http://www.nurse.or.jp/>)および機関紙、新聞紙面(上位作品のみ)などにも受賞作品を掲載するほか、ショートムービー化した作品は、日本看護協会のホームページやその他WEB上で活用する予定です。
※選出・選定基準および方法などについての問い合わせには応じかねます。
※入賞のご連絡は、表彰式での作品発表をもってかえさせていただきます。
- 【留意点】：1)入賞作品は、応募者の氏名・年齢・都道府県名等と共に公表いたします。「看護の日・看護週間」のほか、看護および看護従事者のイメージアップや社会的評価向上のための広報活動(書籍への転載含む)などに使用します。また、最優秀賞(各部門1作品)もしくは、内館牧子賞(各部門1作品)の計4作品の中から、1作品の映像化等を行います。
2)応募に際しては、作品に登場する人物や病院等の施設などが特定されないようにご配慮ください。患者・家族・施設等の関係者の了承を得ることが難しい場合は、当該患者・家族・施設等の関係者が不快にならない表現をお願いします。作品中のプライバシー、個人情報に関して主催者は一切の責任を負いかねます。
3)医療安全、倫理基準など現代と状況が異なる、または不適切な表現があった場合のほか、入賞作品を公表する際の漢字表記の統一など、主催者の判断で修正させていただくことがあります。

4) 入賞作品の著作(使用)権は、全て日本看護協会に帰属するものとします。

第6回「忘れられない看護エピソード」事務局 電話 03-6661-2562

【応募に関する : 10時~18時(土日祝日・年末年始除く)
お問い合わせ先】 mail : mail@episode-oubo.jp

■ 公益社団法人 日本看護協会 概要

- 名称 : 公益社団法人 日本看護協会
所在地 : 〒150-0001
: 東京都渋谷区神宮前5-8-2
TEL:03-5778-8831 FAX:03-5778-5601
URL:http://www.nurse.or.jp/
- 会長 : 坂本 すが
- 設立 : 1947年
- 概要 : 保健師・助産師・看護師・准看護師の資格を持つ個人が自主的に加入して運営する、日本最大の看護職能団体。現在約70万人の会員が加盟し、47都道府県看護協会(法人会員)と連携して活動する全国組織。国民の健康と福祉に寄与するため、看護職能団体として質の高い看護サービスを提供するための活動を展開中。
- おもな活動 : ○安全な看護の提供と質の向上
○在宅医療・訪問看護の推進
○看護・医療政策の提言とその実現
○専門看護師・認定看護師・認定看護管理者の教育と認定
○看護職の人材確保・就業促進
○継続教育の推進
○保健医療福祉の連携促進
○広報活動
○日本看護学会の開催など、研究の振興
○国際交流
○調査研究
○ワーク・ライフ・バランスの推進

■参考資料 第5回最優秀作品

【看護職部門 最優秀賞】

「エンゼルのわが子へ」^{ひらやす かゆみ} 沖縄県・平安 香由美さん

「かわいい、可愛い、お母さんにお産の経験をさせてくれてありがとう。〇〇ちゃんのことはずっと忘れないよ。また会えるからね」と母親と父親は交互に小さな赤ちゃんを抱っこしながらとめどなく流れる涙を拭うことができなかった。

十年間の不妊治療後、やっと妊娠しその夫婦は喜びの絶頂にいた。しかし、妊娠十週に入ったときエコーに映る胎児に異変を指摘された。胎児水腫だった。生存率がほとんどなく、多くは子宮内で死亡するため、妊娠途中でおなかの中の赤ちゃんを外に出す処置が施された。

母親は痛みと悲しみの苦痛の中、赤ちゃんは心臓の止まった状態で黒い皮膚の色で生まれてきた。首の周りが水ぶくれのように異常に膨れ上がり、全身ブヨブヨして数か所の皮膚がめくれ水分がたらたら流れ出していた。

主治医はその赤ちゃんの姿を見て「母親に赤ちゃんを会わせる前に、父親の思いを聞いてください」と気遣った。父親は児と対面した直後、何の迷いもなくきっぱりと言った。

「私たちの子です。母親にも会わせませう」

「会わずに別れることがもっと辛いことですからね」

この夫婦は赤ちゃんが生まれる前から決めていたのだろう。どんな姿で生まれてきてもぜひ抱っこしてあげたいと。

赤ちゃんの肌からにじみ出る水分をガーゼで巻いた綿に受け止めさせ、温めたバスタオルでくるみ父親に抱っこしてもらった。その後、母親との対面になった。その時の母親の第一声が冒頭の言葉であった。

助産師になって37年間、このような対面は初めてだった。これまでの経験では、父親は母親に赤ちゃんを会わせることを拒み、母親も会うことは辛いからと対面しないでの別れが日常であった。母親は私に「子宮筋腫の手術を受けているのでお産は帝王切開しかないと言われていました。この子のおかげで普通のお産を経験でき感謝しています」と言った。エンゼルになったわが子への愛があふれていた。

【一般部門 最優秀賞】

「ナイスのナース」^{かわぞえ よしみ} 東京都・川添 芳身さん

「ナイスナイスの球子さん、おはようさん」

今日も、この一言で始まります。声の主は、看護師になって間もないTさんです。妻が病魔に苦しめられている時、この一声にどれほど励まされ勇気づけられたかわかりません。

認知症の妻は、最近めっきり体力も弱まり、入退院の繰り返しでした。今年は珍しく体調も良く安心していた矢先、秋口に風邪をこじらせ高熱が続くので、急きよ入院しました。

主治医に「重症の間質性肺炎」と診断され、すぐ集中治療のできる個室に移されました。病室には、2種類の点滴スタンドと、心電図、脈拍、酸素濃度などの計器が所狭しと並べられ、緊迫した重苦しい空気が漂っています。

こんな時、天使のように訪れるのはTさんです。計器の数値を丹念に記録すると、「熱も下がり顔色も良くなったわ。ナイスナイスですよ、球子さん。頑張ってるね」と、病状を伝えながら力付けてくれます。皮膚が固くなった腕に点滴の針を刺す時には、「ごめんなさいね、痛くて。頑張ってくれてありがとう。やっぱりナイスナイスの球子さんだわ」と、優しく声を掛けてくれます。何気ない一言ですが、これで痛みも少し和らぐようです。

Tさんの気配りは、言葉だけではありません。声を掛けるときは、必ずベッドのそばにしゃがんで目線を同じくし、やせ細った手を撫でるようにして握っているのです。よく見ると、妻の口元がかすかに動き、涙ぐんでいます。あまりのうれしさに、「ナイスのナースさん、本当にありがとう」と、精いっぱいのお礼を伝えているようです。看護の神髄に触れ、Tさんにかのナイチンゲールを重ねていたのでしょうか。

はらはらと紅葉の散る11月末、妻はTさんの手厚い看護に、いとも申し訳なさそうな顔をして息を引き取りました。おそらく、「こんなに優しくしていただいたのに、応えられずにご免なさいね、ナイスのナースさん」と詫びつつ感謝していたのかもかもしれません。